



龍谷大学文学部  
歴史学科日本史学専攻 教授  
井上学 さん

**公共交通の利用経験が大事**  
公共交通の利用は生活習慣みたいなものです。公共交通が不便な地域から車の利用はなくなりませんが、目の前をバスが走っているにもかかわらず車を利用する人はずっと車に乗り続けま。これまで使ったことがないものを使うことへの心の抵抗がすく大きいんです。公共交通の利用を考えるのであれば小さい頃から車を利用しながら、公共交通も利用したお出掛けを経験しておくことが重要です。公

公共交通の利用度は小さい子どもを描いた絵にも表れます。自家用車しか乗らない子の絵は道路や信号が、公共交通をよく利用する子の絵は道端の花や店が描かれたりと子どもの見る景色も変わってきます。また、車の運転中は子どもを見ながら運転できませんが、公共交通であれば子どもの様子を見ながら会話できます。そうした点から子どものお出掛けに公共交通を利用することをお勧めしています。泣いたらどうしようという悩みかもしれませんが、高校生達も

よく使っているので、高校生があやしくれたり、いろいろな触れ合いもあつたりします。将来、自分に免許返納の意思がなくても家族に車の運転を止められることも考えられます。電車もバスも乗ったことのない人は引きこもりがちになり、早く亡くなりやすいという研究結果も出ています。車の運転が難しくなった体力で公共交通の利用はできません。もしもの時のために、元気なうちから公共交通の利用体験しておくことはとても重要です。フレイル予防の観点からも公共交通を利用してみてください。

**苦痛のない待ち時間に**

市民の皆さんには公共交通の利用を勧めましたが、利用したいと思えるよう行政や事業所には待ち時間のことについて考えてほしいです。公共交通の利用で何が嫌かというところを待っている時間です。待っている時間が苦痛にならないような空間を作ることが大事です。駅でもおしゃべりできる空間、学生の利用が多くなるなど青春の1ページになるような空間。そういった空間を市民にも参加してもらいながら作り上げていけば、より利用される公共交通となるのではないのでしょうか。

**生活の基盤として**



京都交通株式会社  
舞鶴営業所 課長  
福井尚明 さん

平成17年に旧京都交通の路線を引き継ぎ、新たな京都交通が発足しました。現在は市内路線バスを15路線と京都、大阪、神戸行き高速バスの運行をしています。

平成17年は年間約67万人に利用していただきましたが、人口減少やコロナの影響もあり、昨年の乗客数は50万人を下回りました。コロナ前は高速バスの利用が伸びていましたが、こちらも利用者数が減り、現在もコ

**事業者 今後も皆さんの生活を守るために**

**有識者 公共交通を使うという生活習慣に**

ナ前の乗客数まで戻っていません。利用者の減少の他にも運転手をはじめとした公共交通に携わる人の不足など交通業界を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

私たちは交通事業者として、生活の基盤となり、必要とされる市民の皆さんを支え続けられるよう、路線の維持管理・運行に努めています。しかし、一事業者として健全な経営を行う必要があることも事実で、利用者が減れば路線の見直しなどを検討する必要があります。

ともご理解いただきたいと思っています。  
**皆さんに利用いただくために**  
車社会の現代で、公共交通を毎日使うのは難しいかもしれませんが、飲み会の時は公共交通を使うなど、少しでも利用してほしいと思います。  
2019年には、クルーズ船の入港に伴う案内のため、バスの行先(系統番号)と合わせてバス停に3桁の数字(201など)を割り振っています。特に東西循環線は、国道を挟んでバス停が2か所あり、どちらがどちらに行くのかを数字で判断できるようにしています。  
また、交通系イベントへの参加やバスに乗ってきてくれた人が参加できるイベントの開催、イベント参加者のバス料金無料、バスの乗り方ちらしの作成、アンケート回答者への割引券の配布など、少しでも公共交通を利用していただけるように取り組んできました。京都府内で唯一「きょうと子育てバスポート」を持つていれば大人1人につき子ども2人が無料になる取り組みも行っています。  
バスから見える景色はいつもと違って見えるかもしれません。今後とも公共交通を守り続けていくため、ぜひ公共交通をご利用ください。

**公共交通のメリット**

**1 年間約50万円かかる車の維持費の削減**  
自家用車は燃料や保険、税金などで1日約1,500円かかる(2,000ccで想定)。



**2 CO2排出量の削減**

1人を1き運ぶ時の二酸化炭素排出量は、自家用車と比べてバスが約3分の1、電車が約7分の1といわれています。道路を走る車が減ると渋滞緩和にもつながります。



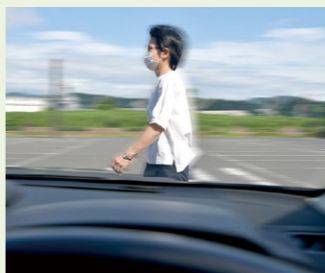
**3 健康維持**

公共交通を利用すると、バス停や駅まで歩く機会が生まれ、運動量が増加します。車で直接目的地まで移動する場合に比べて、健康増進につながります。



**4 交通事故リスクの回避**

公共交通は車と比べて交通事故に合うリスクが低い移動手段です。運転するのは、いづれもその道の「プロ」。安心して利用できます。



**公共交通を補完する新たな取り組み**

利用者の減少や交通事業者の担い手不足という課題に直面し、この先、公共交通の維持・確保が困難になることが予想されます。そこで、将来にわたって市民の移動の手段を確保するため、令和2年度から新しい技術(スマホアプリ)を活用した、共生型MaaS(※)を実施しています。

のほか、まちの情報やバスの時刻表(東西循環線のみ)を確認することができます。

この取り組みは、地方都市の抱える交通課題の解決に向けた先進的な取り組みとして、全国からも注目されています。

現在、オムロンソーシア(以下OSS)、日本交通(株)とともに、OSSが開発したアプリ「memo」を活用し、西舞鶴の高野地区で、移動したい人と送迎可能な人をマッチングさせて、「住民同士の送迎」により目的地への移動を行う取り組みを実施しています。アプリは、iPhoneのみダウンロード可。住民同士の送迎



※共生型 MaaS...あらゆる交通手段を活用し、最適化したうえで自家用車と同等か、それ以上の快適な移動サービスを提供するシステム